

○ ボウフウ（防風）

語源

ボウフウの分類に関しては様々な見解があり、属名がいくつか存在するが、日本薬局方では *Saposhnikovia*（サポシュニコビア属）を規定している。種小名 *divaricata* は、「分岐した、二股に分かれた」の意で、茎が数回二股に分岐してゆく様を描写したもの。和名のボウフウは中国名の音読みのままである。「防風」とは「風邪を防ぐ」ことから名付けられ、感冒の治療薬、予防薬として用いられている。別名を「屏風（へいふう）」ともいうが、風邪を「屏風（びょうぶ）」のように防ぐためと言われている。

基原

Saposhnikovia divaricata Schischkin ボウフウ

セリ科 多年生草本

防風は日本に自生しておらず、現在日本に輸入され市場に出ているものはすべて中国からの輸入品である。日本へは享保年間に渡来したが、一時絶滅した。奈良県大宇陀の森野藤助氏によって栽培されたため藤助防風の名で知られていた。日本では江戸時代に防風の代用としてハマボウフウ *Glehnia littoralis* F. Schmidt が使用され、現在では両者ともに日本薬局方に収載されている。



薬用部分

根及び根茎

産地

中国（黒竜江、吉林、内蒙古、山西、河北、山東の北部）で野生品を採取する。

主な成分

クマリン： フラキシジン、イソフラキシジン、スコポレチンソラレン、ベルガプテン、デルトイン
 クロモン誘導体： 5-O-メチルピサミノールグルコシド、シミフギン、ハマウドール、*sec*-O-グルコシル
 ハマウドール
 多糖： サポシニコバンA~C

主な薬効

解熱、鎮痛

代表的処方

漢方処方用薬である。皮膚疾患用薬、消炎排膿薬、鎮痛薬とみなされる処方及びその他の処方に配合されている。

【防風通聖散】

ボウフウツウショウサン

体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症：高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症（副鼻腔炎）、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、肥満症

（処方内容） 当帰／芍薬／川芎／山梔子／連翹／薄荷葉／生姜／荊芥／防風／麻黄／大黄／芒硝／白朮／桔梗／黄芩／甘草／石膏／滑石

【釣藤散】

チョウトウサン

体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの次の諸症：慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるもの

（処方内容） 釣藤鈎／橘皮／半夏／麦門冬／茯苓／人参／防風／菊花／甘草／生姜／石膏

【十味敗毒湯】

ジュウミハイドクトウ

体力中等度なものの皮膚疾患で、発赤があり、ときに化膿するものの次の諸症：化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、じんましん、湿疹・皮膚炎、水虫

（処方内容） 柴胡／桜皮（樺櫨）／桔梗／川芎／茯苓／独活／防風／甘草／生姜／荊芥／連翹

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「漢方のくすりの事典」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

（お問い合わせ） 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562

URL：www.fukudaryu.co.jp